

描くことは祈り。私の人生そのものが
絵に表れると信じて、今も学んでいます

ちのかいたく

知の 開拓

どのように学びを広げていくか、教える人と学ぶ人、それぞれの学門分野について
学びの出発点とこれまでをお聞きし、そのヒントを探してみました。

自分の血となるものを感じ、他者を得る。
それがこの場なら可能です

教える人

大槻 宏樹 先生

講義内容 「Death Education
—死と向き合う教育—」
「自分史へのいざない」など



「教育」というのは、イデオロギーを教えるものではなく、他者との関わり合いの中でしか成立しない」というのが大槻先生の基本理念。アフリカ・ケニア初代大統領の言葉だそうです。講義の前にはいつもこの理念を講生の皆さんに伝えます。講義で伝えたいこと、テーマにおいても重要な意味を持つからです。

「日本では、依存を捨てて自立を促す、成長と発達だけを目指しすぎていました。学校教育万能主義ばかりが先行していたんですね。悩みや苦しみを分かち合う、依存こそが他者との関わりを生むのだと思います」と大槻先生は語ります。

大槻先生が現在担当している講座は「Death Education—死と向き合う教育—」「自分史へのいざない」など。Death Educationとは、「死の準備教

育」ではなく、死を通して生きることの意味を考え、人間の尊厳を考えると「自分史へのいざない」は、人間が人間らしく生きていくために、自分史を通して自分を発見し、他者を知ること、自分の生きてきた存在に誇りを持つことを目指しています。自分史の例として、吉田松陰や幸徳秋水など死刑の遺書を用いることも。死と向き合うことが、自分史を表現する力に、そして生きる意味を問うことにつながっていくと、先生は言います。

「人間の生きる時間は、*being*と*being*に分けられます。前者は、仕事や知識、評価などを得るための時間。後者は、自然を愛おしむ気持ちや、共感し感じる心、自分の血となるべきものを得る時間です。私は、皆さんに*being*の時間を持つてもらいたいと思っています」

大槻先生のお話を聞いて、受講生の皆さんはどんな変化を遂げていくのでしょうか。

「今年で10年目となる『Death Education』では、同窓会組織があり、年に一度研究発表会を行っています。1人15分で8人ほどの発表時間ですが、毎回、『負けた』と感じますよ。会場にいる全員がその方の発表、つまり経験に共感している。そこに教える側、教わる側という境界はありません。それこそが生涯学習の姿であり、学ぶことのできた広がり、他者を得ることだと思います。」

エクステンションセンターには、*being*に値する時間があり、たくさん仲間がいる。多くの皆さんに、この場に身を置いていただき、自分の血となる。知を得てもらいたいと思っています」

プロフィール
1933年長野県生まれ。早稲田大学大学院卒業、早稲田大学名誉教授。専門分野は社会教育、生涯教育。主な著書に、『近世日本社会教育史論』（校倉書房）、『自己教育論の系譜と構造』（早稲田大学出版部）

大槻先生の 学びの提言

おすすめ図書
～私の本棚から～



【生きる場の哲学
—共感からの出発—】
花崎 卓平著 岩波新書 1981
アイヌの解放などの市民活動に関わった著者が自らの体験と実感に重ね合わせ、いかに生きるべきかを問う。



【生命と自由】
渡辺 慧著 岩波新書 1980
生物科学を通して考察する人間の生き方とは。自然科学者が人間の根幹にどこまで迫ることができるのかを問う書。
※在庫なし

「人の人間ができること、時間には限りがありますよね。ここでは、講義を受けることで、その道の専門である先生が得た経験や知識を一気に享受できます。早稲田には門がない。学びたいと思えば誰でも学べるんですから」と語る朝倉さん(73歳)がオープンカレッジに通い始めたのは、57歳のころ。会社勤めをしながら、夜間、主に経済や経営などに関わる科目を中心に受講。専門的な知識を学ぶおもしろさに目覚め、哲学、心理学と幅広い分野を学ぶようになりました。

13年前、奥様がガンで他界。「いつまでも悲しんでばかりいる自分ではないといけない」と思ったのをきっかけに、油絵を習い始めました。油絵を

描く中で、美術史やその歴史的・文化背景も学びたいと、ルネサンス美術、キリスト教美術、イスラムや仏教美術、さらにはフランス語、スペイン語と興味は広がっていきます。描いた絵は、美術展覧会にも出品し、賞を受賞するほどに。現在は、「キリスト教美術と仏教美術との比較」などを受講するほか、水彩画にも取り組んでいます。

描くこと、その下地を得るために学ぶことが楽しくてしかたない、といった様子。朝倉さんが描く絵には、これまで得た知識や学問がその表現に生かされているのでは。

「自分が描く絵の自己評価が私にはできなくて。一生懸命描いているだけなので。私にとって描くことは祈

り。家内への唯一の供養でもあるんです」と朝倉さんは語ります。

そして、こう続けます。

「70年生きていると、いろいろな経験をしますよね。学ぶことで、その経験一つひとつが学問とつながっていく。家内を亡くし、悲しくつらい時には、『死と向き合う教育』を学び、大切なものを得ました。オープンカレッジで16年間、学んできた内容を見ると、私のその時々々の心境を投影した人生そのものだと感じます。そのすべてが、私の描く絵につながっていると信じて、今も学んでいます」

学びたい気持ちに貪欲に、そして、その時々々の心境に実直に向き合ってきた朝倉さんの学びの世界は、今も広がり続けています。

学ぶ人

朝倉 俊之助 さん

(1993年入会)

受講内容 「キリスト教美術と仏教美術との比較」
「風景の詩II—水彩スケッチの表現の喜び」



朝倉さんの 学びの履歴書

●受講科目例 (一部)

- 1993 「文化人類学入門」
- 1994 「システム思考の科学」「迷い」と「意思決定」「哲学のやさしい話」
- 1997 「エジプト考古学概論」「スペイン文化考察」「風土記の神と宗教的世界」
- 1998 「ルネサンス時代のイタリアの音楽」「歴史」を点検する
- 2000 「美術の現在性について」
- 2001 「セクシュアリティの心理学」「シクロロードの仏教美術」「Death Education」
- 2002 「地中海文化を学ぶ」「奈良美術への招待」「アラブの美術」「フランス語会話A」
- 2003 「古寺美術入門」「近・現代美術(デザインとアート)」
- 2004 「17世紀後半のイタリア音楽」「江戸の海外情報ネットワーク」
- 2005 「魅力心理学」で個性発見「カラーコーディネート」
- 2006 「神の聖地・仏の霊場」「塗り絵で学ぶマンドラ世界」「初心者のための写真撮影術」
- 2007 「スペイン中世の美術と建築」「キリスト教美術の形成」「水彩ステップアップ講座」
- 2008 「水彩画を楽しむ」「盛期ルネサンスの美術」「海外における日本文化」
- 2009 「キリスト教美術と仏教美術との比較」「フランス芸術探訪」「風景の詩II」「ミケランジェロとライヴァル達」「ゴシックの大聖堂」「イタリアを徹底的に「見て歩き」知って「味わう」(2)」